プラン・ニュース［2019 Autumn］NO.112

PLAN NEWS

国際ガールズ・デー特集

～グアテマラの辺境に生きる
先住民族の女の子が来日～

スペシャルインタビュー

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン

プラン・インターナショナルCEO

プランのコミュニティ開発

グアテマラ

少しずつ社会を変える
～半世紀近いプランの道のり～



発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

スペシャルインタビュー〜国際ガールズ・デーによせて〜

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン

プラン・インターナショナル 最高経営責任者（CEO）

Profile

デンマーク出身。国連人口基金（UNFPA）事務局次長、デンマーク外務省次官、UNFPAのトルコ事務所代表、国連開発計画（UNDP）のインドネシア事務所副常駐代表、UNDP本部のマネジメント・アドバイザーを歴任。その他、UNDPのアルメニア事務所、グルジア事務所、アゼルバイジャン事務所で所長を務めた。

今年6月にカナダで開催された、女の子や女性の権利に関する国際会議「Women Deliver」に登壇。
「リーダーになりたいという女の子の願いを叶え、彼女たちを阻む障壁を排除するために、
社会や政府などあらゆる分野における行動が必要」と訴えた、
プランCEOのアンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン。10月11日の国際ガールズ・デーにむけて、
世界の支援者に伝えたいメッセージをお届けします。

「途上国の女の子たちが安心して意見を言える世界にすることが私たちの夢」

――プラン・インターナショナルのCEOとして、どのような世界を目指して活動を続けていますか？

アンネ・ビルギッテ・アルブレクトセン（以下 アンネ） 私は、これまでに40カ国以上の活動国を訪れ、女の子や子どもたち、プランの職員と対話を続け、差別や不平等の根本原因の解決を目指してきました。プランは2017年度から始まった5カ年計画のなかで、1億人の女の子たちが「Learn, Lead, Decide and Thrive（学び、先頭に立ち、自分で人生を決定し、差別や暴力のない環境で成長できる）」世界の実現を掲げています。

私たちのあらゆる活動が、女の子と女性の困難な現状を改善するだけでなく、彼女たちの社会的地位を改善し、彼女たちが権利を十分行使できる社会づくりにつながることを組織全体として目指しています。そして最終的には、性別などあらゆる属性に基づく差別や不平等をなくすことが究極の目的です。

――特に問題視している女の子の現状を教えてください。

アンネ プランは、2017年に南スーダン難民やロヒンギャ難民の女の子たちの現状を調査し、『危機状況下にある思春期の女の子たち※』を発行しました。そのなかで、過酷な状況下にある女の子たちが、深刻な人権侵害に苦しんでいること、それに対して国際社会の関心が低いことに警鐘を鳴らしています。

2018年には、『都市にひそむ危険※』というレポートで、都市部で暮らす女の子や若い女性が、日常生活のなかでセクシュアル・ハラスメントや虐待などにあっている現状を報告しました。暴力や虐待により女の子たちは自信をなくしたり、自分の可能性を見失ってしまったりしているのです。国際社会はこうした女の子たちの意見を受け入れ、対応していく責任があると思います。

――経済格差の広がりや自国第一主義が世界を分断しかねないなか、不安や挫折感を感じることは？

アンネ 世界はこれまでにない速さで変化しています。気候変動や不平等、ナショナリズムの拡大、自由主義や民主主義の危機……。途上国だから先進国だからといった境目もなくなってくるかもしれません。誰も今後どうなるか想像できません。それは確かに不安ですが、同時に私たちに希望を与えるはずです。混乱のなかには、物事を新たな視点で見直す機会、よりよい方向に変える機会があります。そして私たち、プランがその解決の一端を担えると信じています。

――マララさんのノーベル平和賞受賞もきっかけに、女の子のパワーへの注目が高まっています。

アンネ 最近、ひとりの女の子が世界を動かした例をご紹介します。2018年夏、当時15歳のスウェーデンの少女、グレタ・トゥーンベリさんが、気候変動への政府の対応に対して、議会前で2週間の座り込みをして抗議しました。その行動は世界の子どもたちに大きな影響を与えました。2019年の世界経済フォーラム年次総会でもスピーチした彼女は、気候変動の問題に対する大人の責任を問い、次のように語りました。「大人の皆さん、どうか楽観的にならないでください。パニックになってください。そして行動を起こしてください」。

一方で、途上国の女の子のなかには、自分の意見が言えない子もたくさんいます。彼女たちが安心して意見を言える世界にすることが私たちの夢です。

※https://www.plan-international.jp/about/libraries/data/#d06

私が大切にしている言葉

「もしあなたの夢が怖気づくようなものでなければ、その夢は小さすぎる」

エレン・ジョンソン・サーリーフ
リベリア前大統領
アフリカ初の女性大統領

女の子が自信をもつということ

〜「ベナンの養鶏プロジェクト」がもたらした自己肯定感〜

「私みたいな人でも貢献できるんだと思った」

西アフリカのベナンでは、女性の地位が低く、10代前半の女の子が「学校をやめて結婚しなさい」と言われる社会環境にあります。プランは、このベナンで、10代の女の子を対象に養鶏で収入を得るトレーニングをしました。雄鶏と10匹の雌鶏、養鶏のカゴを提供し、餌の作り方、病気にならない方法を教える。女の子たちは、鶏を育て、卵を市場で売って収入にできます。

自分で収入を得られるようになった女の子と話して驚いたのは「自分を大事に思えるようになった」という言葉。よく聞いてみると、「村の人から生まれて初めて教えてほしいとお願いされた。私みたいな人でも家族や地域に貢献できるんだと思った」と言うのです。人から頼られることで自分の価値を認識し、自信がもてる。経済的自立が自己肯定感につながるということを、改めて学びました。（プログラム部部長　馬野裕朗）







写真上、中／養鶏トレーニングを受ける女の子たち 下／馬野職員

EVENT　2019年「国際ガールズ・デー」のアクション、イベントの詳細・申込はウェブサイトでご確認ください
https://www.plan-international.jp/girl/idg2019/



©Natsuki Yasuda

【写真展＆トークイベント】（いずれも入場無料）

フォトジャーナリスト 安田菜津紀が出会った グアテマラの女の子たち

今年7月にプランのグアテマラの活動地域を訪問したフォトジャーナリストの安田菜津紀さん。そこで出会った人々の生活や風景、女の子たちの写真を展示するほか、写真展初日は安田菜津紀さんのトークイベントを行います。

【写真展】
開催期間：10月1日（火）～10月16日（水）
12：00～19：00　※土日・祝祭日は休業日
会場：YellowKorner Showroom & Shop（ICS内）
東京都港区六本木5-17-1　AXISビル3F　ICS
【トークイベント】
日時：10月1日（火）　19：00～20：15
会場：同上



安田菜津紀：1987年神奈川県生まれ。フォトジャーナリスト。国内外で難民や貧困、災害の取材を進める。著書に『写真で伝える仕事 -世界の子どもたちと向き合って-』（日本写真企画）、ほか。TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

【映画上映会＆トークイベント】

「1日1ドルで生活」の 全国自主上映会を開催

アメリカの大学生4人がグアテマラに赴き、56日間を1日1ドルで生活するというドキュメンタリー映画。映画に登場するマヤ民族のローサという女の子がさまざまな困難に直面しつつも、夢にむかって前向きに生き、自己実現を果たす姿は、国際ガールズ・デーにぜひ見ていただきたい作品です。

この映画上映会を全国で開催します。上映会ではBecause I am a Girlエンジェルの森星さんのメッセージ動画もご覧いただけます。ぜひお近くの上映会に足をお運びください。詳細は下記ウェブサイトから各主催者へお申し込みください。



http://unitedpeople.jp/1d1d/girlsday2019/
上映期間：
10月1日（火）～31日（木）

映画上映会とトークイベント＠東京

プラン主催の映画上映会にあわせて、配給会社ユナイテッドピープル代表の関根健次氏と、国際協力・ジェンダー専門家の大崎麻子氏のトークイベントを行います。グアテマラから来日するエベリンさんも登壇し、スピーチします。
日時：10月11日（金）19：00～21：00
場所：ユナイテッド・シネマ豊洲

当日はTwitter上で映画やイベントの限定配信を行います。詳しくはプランのウェブサイトをチェック！

第8回
国際ガールズ・デー

THINK FOR GIRLS　PLAN INTERNATIONAL 国際ガールズ・デー

今年のテーマは
「THINK FOR GIRLS　遠い国の女の子の未来のために」

10月11日は女の子の権利やエンパワーメントの促進を、広く国際社会へ呼びかける国際ガールズ・デー。
プラン・インターナショナルはこの日を、途上国の女の子たちが直面している問題について、
「知って」「関心をもって」「行動を起こす」機会とします。
今年は、移民集団（キャラバン）の問題で揺れるグアテマラにフォーカスを当て、「遠い国の女の子」代表として、
先住民族の女の子が来日するほか、映画上映会や写真展、トークイベントを開催します。

グアテマラの辺境に生きる 先住民族の女の子が来日します

先住民族の家庭に生まれて

先住民族のケチ族の家庭に生まれたエベリンさんは、現在、地元のコミュニティ・カレッジに通いながらプランの活動に参加しています。

土木作業員として働いている父親の仕事は安定せず、代わりに母親が地元特産の手織物の製作・販売により収入を得て、一家を支えてきました。母親は地域の社会活動にも積極的に関わるほか、子どものころに読み書きを学んだ経験から、教育の重要性をよく理解していました。

一方、女子教育の重要性に対する理解が不足しているグアテマラの一般的な例に違わず、エベリンさんの父親は女の子に教育は不要であるという考えでした。そのため、娘たちを学校に通わせることには否定的で、母親との口論が絶えず、一時期父親と離れて暮らしていました。

教育がもたらした家庭の変化

その後、教育を受けた姉が働き始めたことを受けて、父親は少しずつ、教育のもたらす好ましい影響を認識していきます。家族が再び一緒に暮らすようになると、父親は、勉強を続けたいというエベリンさんの強い思いに理解を示すようになり、進学を許可しました。

プランでの活動を通じて

エベリンさんは、プランの活動を通じて、地域の女の子たちが直面している問題を目にし、特に学校に行くことの重要さが人々に認識されていないことや、同世代の女の子が男性の暴力行為に苦しめられていることを深刻な問題としてとらえています。

こうした問題意識をもって、子どもの権利や女の子のリーダーシップなどについて学んだほか、プランが実施する就業支援のトレーニングにも参加しました。地域の女の子たちのロールモデルとしての役割を期待されているエベリンさんは、プランの活動を通じ、地域が抱える課題に対する理解を深め、解決へむけた取り組みをすすめたいと考えています。


プランの活動に参加するエベリンさん



プランの活動に参加するエベリンさん（20歳 学生）

今回、日本へ訪問できることを、とても誇りに思っています。私の住む地域では、「女の子は早く結婚しなさい」と言われ、学業を終えずに結婚することが多いです。プランの活動を通じて、私の経験を多くの人に聞いていただき、同じ地域に住む人たち、特に大人たちに女の子が学校に行くことを制限するのは間違っている、と気づいてもらいたいです。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

グアテマラ

少しずつ社会を変える ～半世紀近いプランの道のり～

今年の国際ガールズ・デーでグアテマラから来日する、エベリンさん（※P4-5参照）。
グアテマラのなかでも先住民族が多く、貧困率の高い地域で育ちました。
プラン・インターナショナルは、1978年からグアテマラで、ひとりでも多くの子どもたちが教育を受けられるように活動してきました。これまでの活動のダイジェスト、そして現地職員からのメッセージをご紹介します。



グアテマラってどんな国？

国民の約4割を先住民族が占める、多文化の国。他の中南米の国々と同様、「マチスモ（男性優位主義）※」が広く根付いています。プランはグアテマラの農村部を中心に3県4地域で活動しています。

※ラテンアメリカを中心にみられる「伝統的な男らしさ」を強調する考え方・生き方


プランの支援により建設された学校に通う女の子


街灯も人通りも少ない通学路


老朽化で廃校になった学校

PROBLEMS

中学校の就学率の改善が課題

グアテマラの小学校就学率（男女平均）は88％[i]であるのに対し、中学校の女の子の就学率は約47％[i]です。これはグアテマラ全体の数字であり、たとえば農村部のカルチャ地域では中学校の就学率は約20％、修了時には4％[ii]を下まわります。この理由は3つに分かれます。

1 早すぎる結婚

「女の子は早く結婚するべき」という考え方が当たり前になっています。結婚によって、女の子は進学をあきらめたり中途退学したりしてしまいます。

2 教育への理解不足

「教育のために時間やお金をかけても意味はない」といった考えが地域に根ざしています。子どもは早く働いて家族を支えるべきと考える大人は、少なくありません。

3 学校不足

小学校はすべてのコミュニティにありますが、中学校がないコミュニティは多くありません。例えば、500あるコミュニティのうち、中学校があるのは35のみ。設備や教師、教材の不足も大きな問題です。さらに中学校が遠くて通学途中で性暴力に巻き込まれる危険性が高いため、女の子が進学をあきらめることも非常に多くあります。

[i] WorldBank Education Statisticsより http://datatopics.worldbank.org/education/indicators
[ii] https://www.plan-international.jp/news/supporter/20190610_16796/

OUR ACTION

教育への理解不足と学校不足の解決にむけて


法改正を宣言する記者会見に参加するプランの職員と女の子グループ

こうした課題を解決するため、プランは次の2つの活動を行いました。

早すぎる結婚廃絶キャンペーン

かつて、グアテマラでは法律上女の子が結婚できる年齢は14歳（男の子は16歳）と定められていました。そこでプランは、2012年、法律上の結婚可能年齢の引き上げを提言するために「女の子と若い女性たちの作業部会」をたちあげました。具体的には、「早すぎる結婚廃絶キャンペーン」の資料を配布したほか、女の子の権利に関する講習を実施しました。講習を受けた女の子たちは、自らが女の子の権利について広めるべく活動をしました。

3年間にわたってキャンペーンを続けたことも影響し、2015年には、結婚可能な年齢を男女とも18歳に引き上げることが議会で承認されました。この結果、2015年には2万件以上もあった18歳以下の結婚申請件数が2016年には37件と激減。2017年には、国会で民法改正法案が可決され、18歳以下の結婚が完全に禁止されました。

しかし、法律で早すぎる結婚が禁止されても、教育への理解不足や学校不足の課題は残っています。プランは、教育の重要性や女の子の権利について、地域住民へのトレーニングを通じて意識改革を続けています。

中学校開校と復学支援

プランは、中学校不足を解消するため、2016年からグアテマラ教育省と各自治体に対し、中学校の開校を働きかけました。この結果、例えばカルチャ活動地域では、今年7月までに9校の中学校が開校され、さらに2校が開校準備中です。

また、入学しても途中で退学してしまうケースも少なくありません。そのため、プランは独自の調査方法でチャイルドの通学・健康状態を調査しています。チャイルドが学校に通っていないことが確認された場合、職員が家庭訪問を行い、チャイルドが復学できる方法を一緒に検討します。

これにより、現地スタッフは約5,000世帯を訪問し、教育を受けさせるよう指導したほか奨学金などの支給により、1,500人ものチャイルドが復学することができました。長い年月をかけて地域に根付いたプラン・スポンサーシップだからできる細やかなフォローアップです。


新しく開校された中学校で学ぶ子どもたち


スポンサーシップ・マネジャー
ヘレン・ムラーリェス職員

学校不足を解消するためには、各機関との連携が不可欠です。プランの働きかけにより、グアテマラ教育省は新しい学校を認可して必要な教材を支援。自治体は教師の給与が支払われるよう調整してくれました。この7月までに9校が新しく開校し、この支援がなければ学校に行けなかったであろう合計678人の生徒を受け入れています。こうした成果は日本をはじめ、世界の支援者の皆さまのサポートなくしては達成されませんでした。今後もグアテマラの子どもたち、女の子たちが貧困の連鎖に巻き込まれることなく、自分の人生を自分で決められるための教育と環境をつくっていきます。

ヨルダン

シリア難民の女性たちに、人生が変わるチャンスを



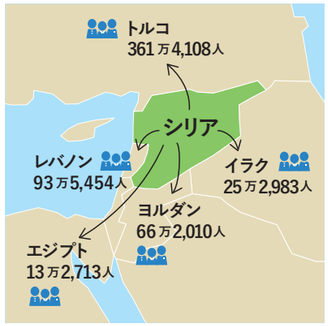
シリア南部の国境に面したヨルダンには、約66万人のシリア難民が暮らしています。ザータリ、アズラックという2つの巨大な難民キャンプがあり、プラン・インターナショナルが今年7月から開始したシリア難民支援のプロジェクトはアズラック難民キャンプで行われています。プロジェクト開始直前にここを訪れ、シリア難民の女性たちと交流した様子をレポートします。

レポーター　代表理事・専務理事／事務局長　棚田雄一

遊びや学びの場もない劣悪な環境のなかで

今年6月の終わり。ヨルダンは気温約30度で日差しは強いものの、カラッとして過ごしやすい暑さでした。今回私たちが訪問したアズラック難民キャンプは、砂漠のなかにあります。

キャンプはいくつかの区画に分かれていて、プランはNo.5というキャンプに2016年、NGOとして初めて支援に入りました。ヨルダン事務所の所長をつとめるムナ・アッバスは、このNo.5で支援を始めた理由を「ほかのエリアと比べて、このキャンプは子どもの安全や保護という観点で非常に劣悪な状況だったため」と話しました。子どものための遊びや学びの施設もなく、早急に支援が必要な状況だったため、2017年から幼児期の子どもの教育支援を行っています。



シリアから隣国へ逃れる難民の数

シリアからは約361万人がトルコ、約93万人がレバノン、約25万人がイラン、約13万人がエジプトへ逃れています。今回リポートしたヨルダンではトルコ、レバノンに次ぐ約66万人が難民として暮らしています。※https://data2.unhcr.org/en/situations/syria　(2019年7月4日現在)

難民女性が抱える心の傷、高まる不安

今回、私はシリア難民の女性たちとじっくり話をする機会を得ました。彼女たちはとても控え目で、問いかけに対して最初は言葉少なでしたが、次第に難民として抱える心の傷を話してくれました。

シリア内戦で住み慣れた家や土地を手放さざるを得なかったこと。内戦が激化するなかで難民として隣国に逃れる際に、家族が拘束され行方不明になったり、殺害されたりしたこと。なかには、兵士などから暴行を受けた女性もいました。彼女たちの人生に突然訪れた事態を聞いて私は言葉をなくしました。

彼女たちは、なんとか隣国に逃れた今も、長期にわたる難民キャンプでの生活、子どもたちの教育、暴力や治安の問題などへの不安を抱えており、その不安は増していくばかりです。

早すぎる結婚の弊害を自分たちで学ぶ

今回支援を開始したガールズ・プロジェクトでは、こうした女性たちの不安を解消するため、ジェンダーに基づく暴力の防止や早すぎる結婚の問題などに取り組みます。

訪問で印象に残ったのは、プランが行っている難民の女の子や母親、父親を対象にしたトレーニングです。そこでは、参加者たちが早すぎる結婚の弊害について自分で考えたり、発言したりしながら、議論を深めていました。こうしたトレーニングは、参加者が実際に結婚を取りやめたり、遅らせたりすることにつながっています。

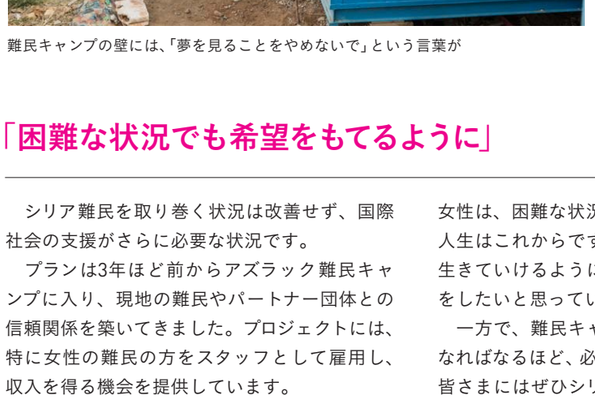
ある母親はこう話してくれました。「私と夫も若くして結婚しました。実際には家庭をもつ準備ができていなかったので、とても苦労しました。今回トレーニングに参加し、早すぎる結婚の問題をたくさん知ることができたので、娘たち2人には彼女たちが望まない早すぎる結婚はさせないことを、夫と話して決めました」。

紛争で被害を受けるのは子どもや女性たち

今回のプロジェクトは、難民を受け入れる側のヨルダンの女性たちも対象です。難民を受け入れる側も、経済的にも社会的にも大きな負担となっているのが現実だからです。そのような状態が続くと、住民の不満は難民にむけられる危険もあります。不公平感や不和を引き起こさないためにも、国際機関やNGOの適切な支援が必要です。

現在シリア難民は国外に逃れている難民の数だけでも562万人(※)とされ、国際社会としての継続支援が必須の状況です。国内避難民はそれ以上いると言われており、プランもシリア国内への支援の可能性も含めて検討しています。

紛争などでもっとも大きな負の影響を受けるのは、立場の弱い女性や子どもたちです。彼女たちが安全に生活できて、早すぎる結婚ではなく、教育を継続するなど自分の人生に関わる重要なことを自ら選択する。そのような決断を皆さまの支援によって後押しすることができます。ガールズ・プロジェクトを通じて、ひとりでも多くのシリア難民の女性たちの人生が変わるチャンスを提供できるよう、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。



シリア難民の若い女性たちとの対話



難民キャンプの壁には、「夢を見ることをやめないで」という言葉が

難民キャンプを歩く親子



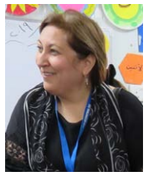
「困難な状況でも希望をもてるように」

シリア難民を取り巻く状況は改善せず、国際社会の支援がさらに必要な状況です。

プランは3年ほど前からアズラック難民キャンプに入り、現地の難民やパートナー団体との信頼関係を築いてきました。プロジェクトには、特に女性の難民の方をスタッフとして雇用し、収入を得る機会を提供しています。

難民のなかでも、特に子どもや女の子、若い女性は、困難な状況にありますが、彼女たちの人生はこれからです。彼女たちが希望をもって生きていけるように、私たちは少しでも手助けをしたいと思っています。

一方で、難民キャンプに滞在する期間が長くなればなるほど、必要な支援は増えていきます。皆さまにはぜひシリア難民に対する関心を持ち続けていただきたいと思います。



ムナ・アッバス
ヨルダン事務所長

「シリア難民の女性の安全な居場所」プロジェクトは、ガールズ・プロジェクトのひとつです。活動内容の詳細はウェブサイトをご覧ください。
https://www.plan-international.jp/join/girls/

ベトナムの学校建設プロジェクトで、社員の社会貢献意識に大きな変化

自動車開発を支援するワイズトレーディング株式会社。
創業20周年事業として、オーダーメイド・プロジェクトを通じた
支援を決めた経緯や思いをうかがいました。



学校に設置された記念プレートと江崎浩司さん

江崎浩司さん　ワイズトレーディング株式会社　代表取締役社長

創業20周年事業として支援を決定

電気自動車やプラグインハイブリッド車の駆動技術の開発、自動運転技術、エネルギー技術など、私たちは次世代にむけ、さまざまな自動車や自動車部品の開発・設計を行っています。社員の満足度向上やモチベーションを維持する目的で、定期的に社員旅行やレクリエーション、クラブ活動などを行っていますが、創業20周年を迎えるにあたり、ベトナムの学校建設を支援することに決めました。社員が目で見て肌で感じて、自発的に今後の社会貢献活動を考えて欲しいという思いがあったからです。

オーダーメイド・プロジェクトを選んだのは、実際に現地に行って成果をみられること、記念プレートで事業の足跡を残せるからです。落成式に社員5人と出席したのですが、「大変よい活動に参加できた」と、参加者全員、満足度が高く、帰国後の社内報告会も積極的に行ってくれました。

社員が自発的に考える機会を作りたかった

ある社員は、子どもたちが学校までむかう道のりの長さに驚き、「子どもたちが毎日この距離を歩いて通学することを知り、我々が普段当たり前に感じている環境との違いを実感した」と話していました。またある社員は「テレビやインターネットのニュースで、『ベトナム』という言葉を拾うようになりました」と、今まで他人事だったベトナムを身近に感じ、経済・社会格差に自然と目がいくようになったそうです。「ほかにどんな支援方法や活動ができるのかなどを調べるようになった」などの感想もありました。



子どもたちと一緒に記念撮影



江崎さんらが配布した学習キットを前に、興味津々の子どもたち



セレモニーで子どもたちが披露してくれたダンス。「一生懸命練習した様子がうかがえた」と感激した社員も

自身が長年プラン・スポンサーシップを通じ、チャイルドと交流をしていたことからです。とはいえ、社員一人ひとり、道徳や美徳、主義主張などは違うものです。それでも、自分たち以外の国の人たちに目をむけ、日本とその国がともによくなっていくような取り組みをすることの重要性に社員が気づいてくれたこと、またその一端をみんなで担えたことは、会社としても大きな財産になったと思います。

創業20周年事業として「企業、個人を問わず、他者貢献の意義を自ら考え、活発に意見を交わし、実際に行動しよう」と社内へのメッセージを発して始めましたが、現地に行かなかった社員も含めて視野が広がったように思います。

今回の支援を決めたのは、私

オーダーメイド・プロジェクトとは

学校や診療所、給水設備の新設など、ひとつのプロジェクトを「まるごと支援」いただくものです。企業のご希望を聞き取り、現地のニーズとすり合わせてひとつのプロジェクトを形成することができます。事業内容との関連性や進出拠点でのプロジェクトを形成することにより、「自社らしい」形で社会課題の解決に取り組むことが可能になります。

現地のニーズに合った地域支援ができる。少ない人数でできるのも魅力

現地の人たちが求めるプロジェクトに賛同した支援者数名から100万円ずつご寄付いただき、
大きなプロジェクトが実現します。この活動をはじめ、
さまざまな支援をしてくださっている支援者の石井伊知郎さんに、お話をうかがいました。



石井伊知郎さん





（上）「カメルーンの産科病棟建設プロジェクト」で整備された病院に通うお母さんと赤ちゃん（右）「ネパールの女の子の自立支援プロジェクト」で、バリスタ・パン職人コースの訓練を受ける女の子たち

報告会への参加が支援継続につながった

35年くらい前、私が医師になったばかりのころから支援をはじめました。これまでに7人のチャイルドと手紙のやりとりをしながら、支援を続けています。

ただ、当時の私は勉強することも多く、時間的にも経済的にも余裕がなかったため10年ほど支援を中断した時期もあります。

一口100万円プロジェクトでの支援は2年前から始めました。その年の秋の一口100万円プロジェクトでは、ネパールの女の子の自立支援に一口、同じくネパールの村の給水設備設置に一口、2018年春のカメルーンの産科病棟建設プロジェクトへは二口を寄付しました。私は小児科医ですが、帝王切開のときに立ちあったり、産後の子どもを診たりしていますから、このプロジェクトには特に重要性を感じました。

10人程度の少ない人数で遂行される一口100万円プロジェクトは、貢献度が高いと感じます。ただしチャイルドと手紙のやりとりをしたりするわけではありませんから、お金の使い道に漠然とした不安がありました。そこで支援を再開してからはプラン・インターナショナルの活動報告会に参加することにしました。以前から毎年の決算報告書に目を通してはいましたが、プランの職員に直接会うと安心できますし、支援を続ける気持ちが増すんですよね。

人の命の重さに差ができない世の中に

私自身、金銭的なハンディを感じながら医師になりました。公立校から国立大学医学部に入学しましたが、親に経済的負担をかけられなかったので、奨学金を受けながら学びました。奨学金を返済し経済的に余裕ができた今、「自分より貧しい子どもたちを救えるなら」という気持ちが支援につながっています。また、寄付金控除で4割近く戻ってきたお金を、そのまま一口100万円プロジェクトの寄付金にまわすことができているのも続けられている理由かなと思います。

一口100万円プロジェクトに限りませんが、プランのすべての活動において、現地の人たちが自分たちに必要なことを話し合って、地域全体が自立するためにお金が使われるという形が気に入っています。支援する側が一方的に用途を決めるより現地のニーズに合っていますし、一人の子どもに支援するより、地域がよくなったほうが救える子どもたちも増えると思うからです。

いつか、医師としてボランティアで途上国の子どもたちを診てあげたいと思っています。経済力が命の重さを決めるということが、なくなることを願って。

一口100万円プロジェクトとは

春と秋の年2回募集しています。ご寄付いただいた方には個別の提案書・報告書をお届けし、お名前入りのプレートを設置します。プロジェクトに応じて、現地を訪問することも可能です。
現在はヨルダンにおける「シリア難民の女の子の能力強化プロジェクト」の支援を募集しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。



チャイルドに会ってきました！

チャイルドへの支援で私自身も支えられていると実感

最初のチャイルドに会えなかったことがとても心残りだったという角鹿さん。
「同じ後悔はしない」との決意を胸に、わずか5日間の旅に出かけました。

スポンサー **角鹿（つのか） 鮎さん**　チャイルド **ヘバさん（訪問時 14歳）／エジプト**

初海外でコミュニティ訪問

仕事が多忙のため、年末年始に5日間（現地滞在は2日）の旅。しかも初めての海外旅行だったのですが、出発直前にエジプト国内便の手配にトラブルがあり、急きょ現地職員の方に車で送迎いただくという、特別な対応を取っていただきました。直前にもかかわらず柔軟な対応に、安心して訪問できました。

コミュニティでは、まず事務所でプランの活動について説明を受け、支援によって作られた教室や広場など、1カ所ずついねいに案内していただきました。そしてついにヘバさんと彼女の家族に会えたときには、まるで夢のようでした。

私が独学のつたないアラビア語で話しかけると、ヘバさんもたくさん話をしてくれました。好きな色やおしゃれについてなど、お互いに興味のある話で盛り上がっていると、お父さんやお兄さんはつまらなそうな表情。逆に、大人たちがプランの活動やいじめなどについて真剣に語り合っていたら、ヘバさんはあくびをして退屈そう。こういうところは万国共通なんだなあと微笑ましく思いました。

私はこれまで出会った人たちのおかげで学ぶことの大切さを知り、世界を広げてきました。そして、私が会いに行くことで、もしかしたらチャイルドの世界も少し広がるかもしれないと思い、訪問を決めました。でも、そんな私の決断に対して、プランの皆さんが懸命に動いてくださったことや、コミュニティの方々が想像よりもずっと歓迎してくださったことが本当にうれしく、私自身もチャイルドへの支援に支えられているのだなあと実感しました。



コミュニティの子どもたちと記念撮影



2日間一緒だった日本語の通訳さんと

※現在、チャイルドとの面会は、自宅ではなく学校などの集会所で行われています
●コミュニティ訪問についての詳細はウェブサイトをご確認ください https://www.plan-international.jp/supporter/visit/

「プラン全国支援者の会」を初めて開催しました！

安藤良一さん／「プラン名古屋の会」代表

2019年6月1日、名古屋市内のイーブルなごやで、「プラン全国支援者の会」を開催しました。

これは「プラン名古屋の会」が主催した、すべての支援者を対象とした意見交換会です。初めての試みでしたが、池上理事長や棚田専務理事・事務局長、そして全国から50人の方が参加されました。

当日は「支援者同士のつながりをもてる企画がほしい」「会に所属していない人も集まれるとよい」「6万人いるプランの支援者をもっと頼って」「事務局の皆さんの熱い思いをもっと直接伝えて」など、支援者の思いを共有することができました。今後は事務局と支援者、そして支援者同士のつながりを深め、一緒にプランの活動を作り上げていけることを願っています。



熱い思いを語り合った参加者の皆さん

アドボカシー

「メディアにおける女の子の描かれ方」に関するレポートを世界19カ国で発表



調査結果を分析するユースメンバー

プラン・インターナショナルは2019年の国際ガールズ・デーにむけて、映画や広告などのメディアで女の子や女性がどのように描写されているかについて、日本を含む世界19カ国で調査しました。

日常的に見ているメディアは、人々の考え方や行動に大きな影響力があることがわかっています。女の子や女性の描かれ方によって、ステレオタイプ化や性別役割の固定化が進んだり、ジェンダーに基づく差別の助長につながったりすることもあります。望ましい描かれ方を提言するために、メディアにおけるジェンダー分析を専門とする機関と連携し、問題を分析しました。

日本ではプランのユースメンバーが中心となり、身近な広告がジェンダーに配慮されているか、また若者にどのような影響を及ぼしているかを探るため、9月に15～25歳を対象とした意識調査を実施。結果分析を行い、広告に関わっている関係者との意見交換を行うための提言書を作成しました。日本を含めた世界19カ国の調査結果は、10月にプランのウェブサイトで発表予定です。

https://www.plan-international.jp/

参加者からひとこと

ステレオタイプをなくすためには広告の作り手だけでなく、受け手である消費者の意識も重要だと思いました。今回の学びをほかのユースにも広げていきたいです。

永富さん（高校1年生）

今回のトレーニングで、広告とは女性の可能性を広げるために必要なのだと実感しました。今後は、どのような広告が生活に影響を与えるかを慎重にみていきたいです。

石田さん（大学三年生）

開発教育

地方自治体と連携してSDGsを広める

プランは、全国で初めて「SDGs（持続可能な開発目標）未来都市」に選ばれた長野県が、県内にSDGsを広め、SDGsを踏まえて考えることのできる人材の育成を目指して民間との連携で立ち上げた「NAGANO SDGs PROJECT」を応援しています。

8月には学校の先生を対象とした公開講座「途上国におけるSDGs達成のカギやキーパーソンについて考える」を長野市で実施。当日は、内山雄太職員がSDGsすべての目標達成のカギになりうるSDG4（質の高い教育）、SDG5（ジェンダー平等）に焦点を当てて具体的な活動を含めて紹介しました。出席者からは、学校での国際理解教育を通じたプランとの連携に関する質問が多く寄せられました。



学校の先生約30名が参加

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

「キテンゲ」で楽しむウガンダ生活

紹介する人：プログラム部　**藤村武蔵 職員（ウガンダ駐在）**

アフリカの布は現地で「キテンゲ」といいます。現地の人は結婚式のような特別な日、お洒落をしたい日には皆「キテンゲ・ドレス」でお出かけします。1ピース（横3.5m、縦1m）の布を買って、現地のテイラーに作りたいものを頼むというのが一般的です。自分の好きな布で自分の作りたいものを特注できるのが、キテンゲ・ファッションの最大の楽しみです。私も週末に時間があると、キテンゲ・マーケットに行ってお気に入りの布を見つけ、洋服や小物を作ってもらうのが現地での楽しみになっています。



行きつけのキテンゲ屋さん

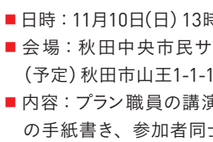
あなたも参加しませんか？

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ



「プラン支援者の会」は、全国各地の支援者の皆さまが任意で活動を行っています。「ほかの支援者の皆さんと話がしたい」、「志を同じくする方々と楽しく活動がしたい」とお考えの方、お近くのプラン支援者の会に参加してみませんか？

Wウェブサイト fフェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai



（上）山形・秋田プランの会の皆さま（左）チャイルドに送る竹とんぼを作りました（プラン千葉）

プラン旭川の会

『1日1ドルで生活』上映会@旭川
- 日時：10月6日（日）時間未定
  2回上映予定
- 会場：旭川市科学館 サイパル 学習室/旭川市宮前1条3-3-32
- 参加費無料、事前申込み不要
- 連絡先：山岡
  Mail：yoko28724172@docomo.ne.jp

プラン名古屋の会 W f

「ワールド・コラボ・フェスタ2019」出展
- 日時：10月12日（土）～13日（日）10時～18時
- 会場：オアシス21「銀河の広場」
  一般ブース18/名古屋市東区東桜1-11-1
- 内容：プランの紹介と資料配布

※両日とも終了後、懇親会あり。どなたも参加自由ですのでぜひおいでください。
- 連絡先：プラン名古屋の会
  Mail：info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
  http://plan-nagoya.sakura.ne.jp
  TEL：090-8076-2278（安藤良一）

PLAN サポーターズ（札幌）

❶『1日1ドルで生活』上映会@札幌
- 日時：10月19日（土）15時～16時30分（開場14時30分）
- 会場：KOZY HALL/札幌市中央区大通西18丁目-1 MIYOSHI-YA 2F
- 参加費：500円　グアテマラのフェアトレードコーヒー付き（予定）

※席に限りがありますので、メールでお早めにお申込みください。
- 連絡先：松澤
  Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp
- 件名「10/19上映会申込」
- 本文「氏名」「人数」「当日連絡の取れる電話番号」「プラン支援者である旨」

❷「北海道国際協力フェスタ2019」出展
- 日時：12月21日（土）11時～17時
- 会場：チカホ（札幌駅前通地下広場）北3条交差点広場
- 内容：BIAAGオリジナルデザインのチャリティーネイル

※当日ボランティア参加希望の方は、10月26日（土）までにご連絡ください。
- 連絡先：松澤
  Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

プラン千葉 W

「秋の例会」
- 日時：10月20日（日）　13時15分～16時
- 会場：千葉市民会館
  会議室/千葉市中央区要町1-1
- 内容：チャイルドへの手紙書き、ほか
- 参加費：500円
- 定員：先着30名
- 申込み〆切：10月18日（金）
- 連絡先：前田
  Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン広島の会 f

❶「まちづくり 市民交流フェスタ」出展
- 日時：11月9日（土）～10日（日）
  10時30分～15時30分
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ
  まちづくり市民交流フェスタ会場/広島市中区袋町6-36

❷「お手紙書き会」（毎月第3日曜開催）
- 日時：10月20日（日）、12月15日（日）
  14時～16時
- 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ
  フリースペース（2Fまたは3F）
  ❶❷に共通
- 内容：チャイルドへの手紙書き
- 参加費無料、事前申込み不要
- 連絡先：小村
  Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン博多

「チベット系インド人の妻が語る！北インドのリアルライフとカレーづくり（仮）」
- 日時：10月22日（火・祝）9時30分～14時
- 会場：アミカス「調理室」
  /福岡市南区高宮3-3-1
- 参加費：2,000円
- 定員：先着25名
- 連絡先：松尾
  Mail：planhakata2017@gmail.com

プラン群馬の会

高崎市『国際交流の集い』出展
- 日時：10月27日（日）11時～15時
- 会場：ビエント高崎/高崎市問屋町2-7
- 内容：プランの紹介と資料の配布など

※当日お手伝いいただける方は、9月30日（月）までにご連絡ください。
- 連絡先：星野
  Mail：kaoru_hoshino@hotmail.com

プラン山陰の会 f

『1日1ドルで生活』上映会@鳥取
- 日時：10月9日（水）17時～18時30分
  10月27日（日）10時～12時
  （映画上映＋意見交換会）
- 会場：鳥取県人権ひろば21「ふらっと」交流スペース/鳥取市扇町21
- 参加費無料、事前申込み不要
- 連絡先：岡川
  Mail：leafmoon804@yahoo.co.jp
  TEL：090-7774-3449

山形・秋田プランの会

「第35回山形・秋田プランの会」
- 日時：11月10日（日）13時～16時30分
- 会場：秋田中央市民サービスセンター（予定）秋田市山王1-1-1
- 内容：プラン職員の講演、チャイルドへの手紙書き、参加者同士の交流
- 参加費：500円
- 申込み〆切：11月7日（木）
- 連絡先：岩谷
  Mail：tadaya-i@chive.ocn.ne.jp

多摩SP会 W

「国際ガールズ・デー職員報告会」
- 日時：11月30日（土）14時～16時30分
- 会場：立川市子ども未来センター
  B1 多目的室/立川市錦町3-2-26
- 参加費無料、事前申込み不要
- 連絡先：矢島
  Mail：tama-web3@ngo-npo.org

■支援者の会に関するお問い合わせ先：リレーション開発部　TEL：03-5481-6100
※「プラン・ニュース」No.113は、2020年4月上旬にお届け予定です

「マイ・プラン・ページ」と「オンライン手紙フォーム」に新しい機能を追加しました

❶ お知らせ機能を新設しました

プラン・インターナショナルのウェブサイト内の支援者限定サービス「マイ・プラン・ページ」。そのトップ画面に皆さまへのお知らせを表示するスペースができました。刊行物の送付やコラムの更新、イベントの開催など、皆さまに関連したお知らせをより早くご確認いただけます。

❷ コラムをリニューアルしました

プランが開催するイベントや、スタッフが出張したときの裏話などの限定コンテンツをお楽しみいただけます。

❸「オンライン手紙送信フォーム」に機能を追加しました

便箋デザインや定型文を自由に組み合わせてチャイルドに送ることができるようになりました。定型文をお選びいただくか、500文字まで自由にメッセージを入力できます。また、お好きな写真を1枚添付できるようになりました。
※マイ・プラン・ページのアカウントをお持ちの方は、スポンサー番号やチャイルド番号の入力の手間が省けます。

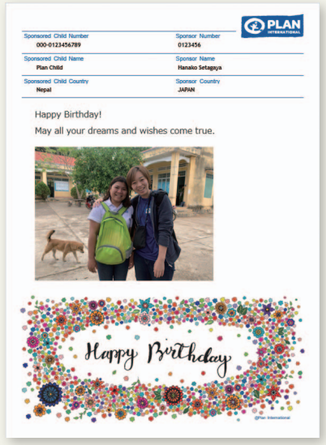
❶



❷



❸



ギフト・オブ・ホープにご参加ありがとうございました！

2018年度の年次報告書に同封した「ギフト・オブ・ホープ～子どもたちにクリスマスプレゼント・お年玉を贈ろう」は、おかげさまでたくさんの方にご賛同いただくことができました。

少数民族の女性たちが家計の担い手となっているバングラデシュのボルグナ活動地域では、423人の女性が縫製や竹細工などの職業訓練を受け、1,116人が起業に必要な資材購入のための補助金を得てミシンなどを購入し、ビジネスを始めることができました。

障がいがあることを恥だと考える文化が根強く残り、障がいのある子どもが家庭内に隠されがちなトーゴの中央州モ県では、幼稚園に通うサディアちゃん（5歳）に下肢装具が贈られ、自分の足で立ち上がることができるようになりました。

皆さまからの温かいご支援に感謝を申し上げます。





（上）受け取ったミシンで縫製をするバングラデシュの女性
（左）贈られた装具により自分の足で立ち上がれたことを喜ぶ笑顔のサディアちゃん

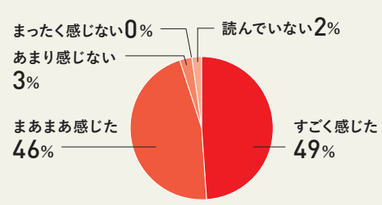
プラン・ニュース111号に1,000件を超えるご意見をいただきました

7月に発行した「プラン・ニュース111号」の内容に関する読者のウェブアンケートを実施しました。1,000件以上の回答が寄せられ、95%の方が「プラン・ニュース」を読んで、プランを通じた支援をしてよかったと感じてくださっていることが分かりました。

また、一番人気の記事は、ブルキナファソの人身取引について絵本調で描いたガールズ・プロジェクトでした。女の子が直面する現実をイラストで分かりやすく表現できたことが好評でした。

改善につながる具体的なご意見もたくさんいただきました。実現できるところから少しずつ反映させて、皆さまと作る「プラン・ニュース」を目指します。ご協力をありがとうございました。今号もアンケートを行っておりますので、引き続きご意見をお寄せください。

「プラン・ニュース」を読んで、プランを通じた支援をしてよかったと感じましたか？



支援者の皆さまからのご意見・思いをご紹介！

事務局には日々、支援者の皆さまからさまざまなご意見、お叱りやお褒めの言葉、
支援への思いなどが寄せられます。そんな中から何通かピックアップし、ご紹介していきます。



広報マーケティング部
津田恵美職員

入局以来10年以上支援者サポート業務に携わり、現在はおもにマーケティング業務を担当

プランを支える方のサポートに感謝！

スポンサーになったのは西アフリカ出身の友人ができたことがきっかけでしたが、行ったこともない遠い国のことを知り、思うようになったのはプランのおかげだと感じています。チャイルドの引っ越しで支援が終了になったり、チャイルドが妊娠したりしたこともありました。今は3人目のチャイルドと交流しています。手紙の翻訳やチャイルドの写真撮影など、プランを支える皆さまのサポートにも感謝しています。(Kさん)



ご自身の経験から途上国の女の子にも思いを寄せてくださったのですね。Mさんのやさしいお気持ちが彼女たちの未来を切り開く原動力になります。そして支援を受けた女の子が、この先誰かを支える存在になれば、やさしい世界がもっと広がっていきますね。



チャイルドとの交流には、日本や現地で多くのスタッフやボランティアが関わっています。日本からの手紙にふれることは、チャイルドや家族だけでなく、現地スタッフたちの励みにもなっています。これからもチャイルドと地域の成長を応援してくださいね。

苦しんでいる誰かの力になりたい

Because I am a girl——この言葉をきっかけに支援を始めました。私自身も、この言葉に苦しめられながら生きてきたからだと思います。ようやく幸せな大人になれた今、自分のように、女の子であるがために苦しんでいる誰かの力になりたい。苦しい経験をしても、幸せになれる道をつくり出すことができることを知ってほしい。これからも、世界のすべての女の子が幸せな大人になれるように、微力ながら支援を続けていきたいと思っています。(Mさん)

チャイルドの成長が仕事の励みです

チャイルドが元気に成長していることが、仕事の励みになっています。チャイルドへの手紙が、メール形式で送れると助かります。(Tさん)



Tさんからの手紙がチャイルドや家族にとっての励みになっているのと同様に、Tさんご自身にとっても励みになっているのですね。これこそが、交流の意義なのだと感じました。チャイルドへの手紙は、インターネットからお送りいただくこともできます。プランのウェブサイト内、「支援者の方へ」>「チャイルドへの手紙」からぜひ送ってみてください。
https://www.plan-international.jp/supporter/br/

母の言葉がターニングポイントに

私がまだ子どものとき、決して裕福ではなかった母が街頭の募金活動に1,000円札を入れたとき、募金は小銭と思っていたので「もったいないやん」と言いました。母は「募金ができる立場であることは幸せなことなんだ」というようなことを話してくれました。今から思えば、私の募金に対するターニングポイントはこの出来事だったと思います。これからも、できることをできる限り続けていきたいと思います。(Mさん)



すてきなお母さまですね。身近な人の言動は心に残り、やがて自分自身の行動にも反映されるのですよね。Mさんのお母さまの言葉、行動が確実にMさんに繋がったということに感動を覚えました。そのきっかけとなったお母さまにも感謝したいと思います。

※ウェブサイト上でも様々なコメントをご紹介しています　https://www.plan-international.jp/about/voice/

プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、Instagram、Twitterで活動国の情報や事務局の日々のあれこれを発信中！

※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。

今号の「プラン・ニュース」について、皆さまのご意見・ご感想をお寄せください

約3分程度の簡単なアンケートです（回答期限：10月24日(木)まで）

1 **QRコードで読み込み**
https://www.plan-international.jp/q/pn112

2 **設問に答えてメールアドレスを登録するだけ**

回答くださった方のなかから抽選で、ささやかなお礼の品をお送りいたします。

PLAN NEWS
2019 AUTUMN NO.112

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：グアテマラ　撮影：安田菜津紀